



函館山を背景に、運搬船から函館港に陸揚げされるレール

あしたの新幹線をつくる

Vol.43

鉄道・運輸機構（JRTT）は、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。



北海道新幹線のレール、函館港に到着しました。

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の本線に敷設するレールは、工場で製造された後、主に船で北海道内に運び込まれ近傍の港に陸揚げされます。このたび、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）で敷設する最初のレールが、2024年10月に函館港に到着し、陸揚げされました。

函館港に陸揚げされるレール本数は、約3,100本を予定しています。このうち、約1,000本のレールが福岡県北九州市の工場で製造され、5日間の航海を経て函館港に到着しました。残る約2,100本は、今年度から来年度にかけて複数回に分けて陸揚げされる計画です。

今回陸揚げされたレールは函館港湾内に一時仮置きした後、来年秋ごろからポルトレラーによる陸上運搬を開始し、北上市市渡に設置予定の軌道敷設工事拠点（「軌道基地」といいます）へ搬入する計画です。この軌道基地は、全線で複数箇所設置する予定です。

函館港以外でのレール陸揚げは来年度以降、瀬棚港、岩内港、小樽港を予定しています。



運搬船から陸揚げされたレールはポルトレラーで函館港湾内の一時仮置き場所へ



レールの一時仮置き場所での貯積作業の様子



陸上運搬の時を待つレールたち

北海道新幹線で使用するレールについて

- ・レール1本の長さは25m、重量は1mあたり60kgなので、1本あたり1.5トンになります。
- ・レールは軌道基地から新幹線本線上に運び込まれます。そこからレール同士を溶接してつないで、徐々に長く（ロングレール化）し、それを敷設します。
- ・新函館北斗・札幌間（線路延長約212km）で使用するレールの総本数は、約36,000本にもなります。

JRTT北海道新幹線建設局
公式Instagram

